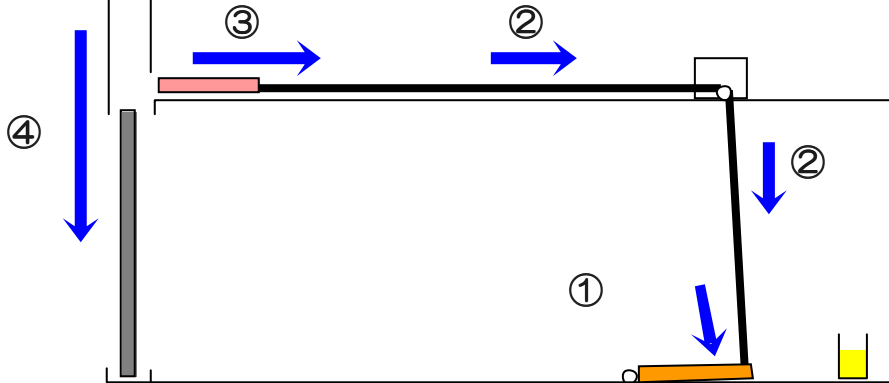


- 捕獲時の作動 -

- ① 踏み板が 踏まれる
- ② ワイヤー（針金）が引かれる
- ③ 扉を支えるトリガーが抜ける
- ④ 扉が落下、わなの入口を閉鎖



■ 捕獲時の状況



イ 大きさ

箱わなの大きさは、地域や個人によって異なります。大きな箱わなのほうが、ヒグマが捕まりやすいという捕獲熟練者の意見もありますが、わなが大きくなるにつれて、運搬や設置の労力、製作費用も大きくなります。

北海道各地の箱わなの大きさを比べてみると、道東・道北地域では比較的大きな箱わなを使用している例が多いようです。小さい箱わなを使用して、大きなヒグマに逃げられた経験を持っている捕獲熟練者が多く、こうした失敗をもとに箱わなを大型化している傾向があるようです。

一方、特に道南地域の捕獲熟練者の中には、捕獲されたヒグマが内部で暴れにくいように、小さなわなを好んで使用している人もいます。

参考までに北海道各地で実際に使用されている箱わなの大きさの例をいくつか示しておきます。

■北海道各地で使用されている箱わなの大きさ (単位 cm)

	(幅)		(高さ)		(奥行き)
網走管内	180	×	180	×	350
	150	×	150	×	300
	90	×	150	×	240
	70	×	90	×	240
日高管内	130	×	140	×	300
上川管内	90	×	90	×	250
	75	×	100	×	270
	150	×	150	×	300
渡島管内	100	×	100	×	240
	146	×	132	×	200
	80	×	100	×	200
	90	×	90	×	189

■大型の箱わな



■小型の箱わな



ウ 格子の構造

格子に使用する鉄筋の太さは3分(9mm)から5分(15mm)が一般的ですが、格子の幅や部材の構造によって箱わなの強度は異なってきます。箱わなの強度を保つ方法としては、平鉄筋を横に渡してその中心に鉄筋を通す構造が最も一般的です。

■鉄筋の構造の例



格子の幅が広いとヒグマが隙間から手を出すことになり、場合によっては鉄筋を曲げられて、逃げられることもあります。

■ヒグマが格子の隙間から手を出している状況



■ヒグマが鉄筋を壊して逃げた例



特に大型の箱わなの場合、重量を軽減するために構造が弱くなりがちですが、捕獲の際の安全性を確保するためにも、箱わなの強度を十分に保つことが必要です。

また、わなの奥の部分については、格子の幅を狭めたり、鉄板を貼り付けるなどしてヒグマに外側から餌を取られないような工夫が施されています。

■餌を外から取られないように鉄板を貼り付けた例



エ 安全装置

ヒグマが捕獲された場合に、扉が上がらないようにする安全装置の仕組みが必要です。安全装置の仕組みとしては、ばねで作動するものや振り子構造になっているものがあり、いずれも扉が閉まると作動して扉が上がらなくなります。また、安全装置を複数つけて、扉が落ちる途中で、段階ごとに作動するように工夫したものもあります。

■安全装置 左：ばね式 右：振り子式



オ その他の工夫

餌の交換がしやすいように写真のような専用の扉をつけている例もあります。

■餌交換用の扉



(2) 箱わなの設置例 (踏み板式の場合)



〈1〉 設置場所を決め、箱わなを搬入する。



〈2〉 箱わなを立木や杭に固定する。



〈3〉 踏み板をセットする。



〈4〉 扉をセットする。



〈5〉 わなの周囲に枝や草をかけて隠す(隠さないこともあります)。



〈6〉 安全装置を外して、設置完了。

(3) 箱わな設置時の工夫

ア 設置場所の選定

箱わなの設置場所を選ぶときには、ヒグマの生態に即してヒグマを捕獲しやすい場所を選ぶことが重要です。各地の捕獲熟練者が設置場所を選定するときに留意していることを下記に挙げておきます。捕獲熟練者によっては、こうしたことをあまり気にしないという人もいます。また、ヒグマは個体によって性質の違いが大きい動物ですので、全てに当てはまるとは限りませんが、参考にしてください。

【捕獲熟練者の意見】

- ・畑の脇の森林や茂みの中に置くと良い。
- ・畑ではなく、通り道を見つけて少し離れた場所に置くと良い。
- ・畑に出没している場合は通り道を見つけて、通り道に対してわなの入口が直角になる形で置くと良い。
- ・畑に出没している場合は、ヒグマの通り道のうち、出口よりも入口の方に箱わなを設置した方が良い。
- ・デントコーン畑に出没している場合は畑の中に置くと良い。

■デントコーン畑の真ん中に設置した例



- ・毎年決まった場所に出没する場合には、ヒグマに警戒されないように、あらかじめわなを置いておくほうが良い。

また、実際の現場では、上記のようなヒグマの性質に係る条件に加えて、

- ・わなを運搬するための車両が入れること
- ・捕獲されたかどうかの確認がしやすい場所
- ・わなが安定する平らな場所

など、捕獲に従事する人間の都合や地形的な制限も出てきます。

さらに、一般の人の中には、興味本位でわなに近づく人もいますので、事故を防止するためにも、人目につきにくい場所を選ぶことも大切です。

イ 警戒されないための工夫

ヒグマは非常に警戒心が強い動物です。捕獲熟練者の中には、ヒグマに警戒されないように、下記のような配慮や工夫をしている人もいます。

【捕獲熟練者の意見 2-1】

- ・ヒグマの出入口を荒らさない。
- ・タバコをすわない。手袋をする。人の匂いをつけない。
- ・人が触れたところなどに匂い消しとして蜂蜜などを塗るとよい。誘引効果もある。

■ 蜂蜜を水で溶かし、噴霧器で匂いをつける



- ・匂い消しとしてヨモギを使用する。
- ・箱わなに木の枝や草をかける。その際に使用する草木はわなから離れた場所から持ってくる。

■ 箱わなに草をかけて隠している例



(続く)

【捕獲熟練者の意見 2-2】

(続き)

- ・横だけでなく入口にも木の枝や草をかけて少し見える程度にする。ヒグマが中に隠れるような感覚にすると良い。
- ・箱わなの中に草を敷いて、周囲の地面と変わらないようにする。

■箱わなに草を敷いている例



また、ヒグマの中には、外側から餌を取ろうとするものや箱わなを倒して餌を取ろうとするものもいますので、杭や立木を利用して番線などで固定しておく必要があります。

■ヒグマに倒された例



■杭を用いた固定の例

